

## 宇治市の人口動向について

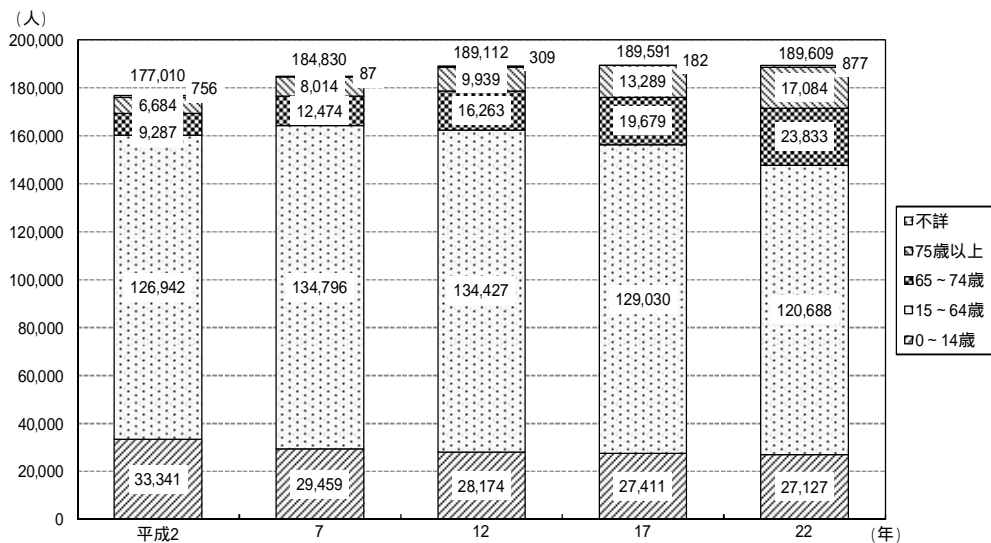
# I. 人口の現状分析

## 1. 総人口と人口構成の推移

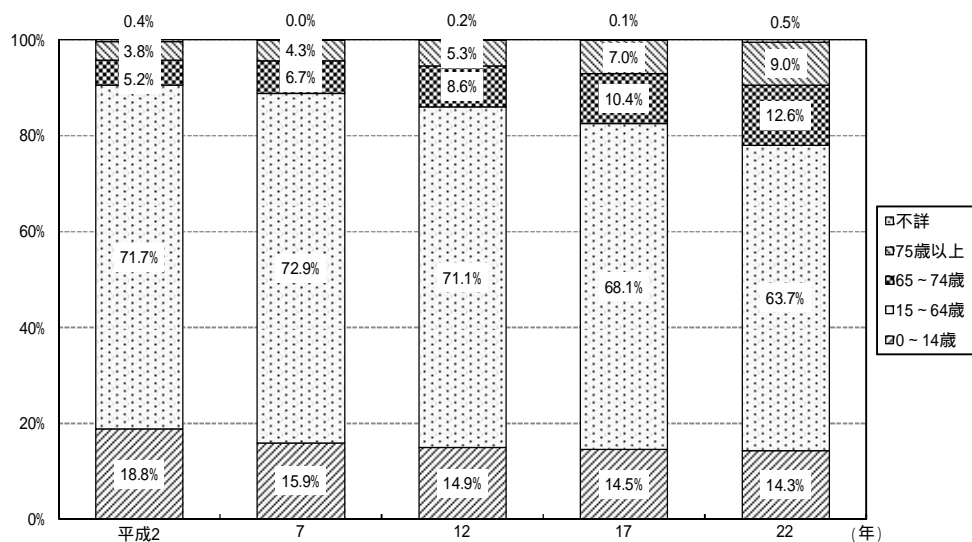
国勢調査による宇治市の人口は、近年微増傾向で推移している。15歳未満の年少人口比率は14%台で推移しているが、15～64歳の生産年齢人口の比率が下がり、65歳以上の高齢人口の比率が高まっている。

図表I-1 年齢四区分別人口

### 総数



### 比率

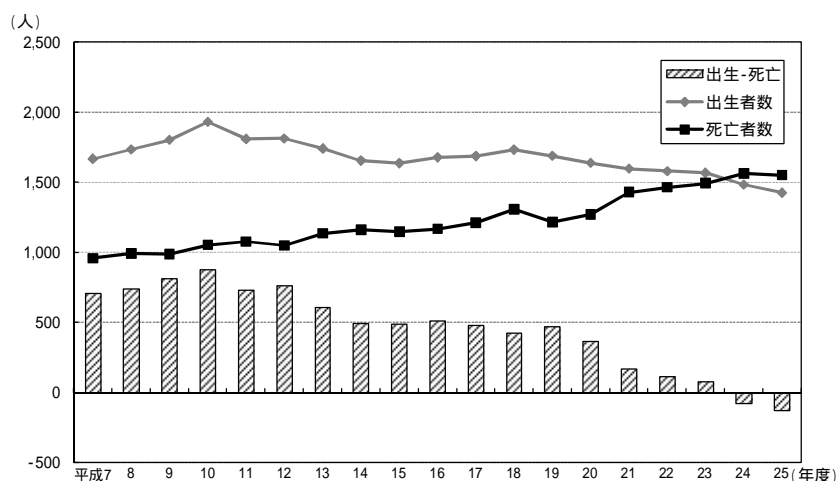


## 2. 自然増減に関する分析

宇治市においては、平成24年度に出生数が死亡数を下回って人口が自然減少に転じた。合計特殊出生率を見ると、全体の数字では京都府の水準よりも高く、全国よりはやや低い。全国と比べると、20歳代において出生率が低い。

年齢別の出生率は、30歳代の後半は一貫して高まっているが、20歳代はゆるやかに低下している。30歳代前半は減少傾向から反転して高まっている。

図表I-2 宇治市における出生・死亡数の推移



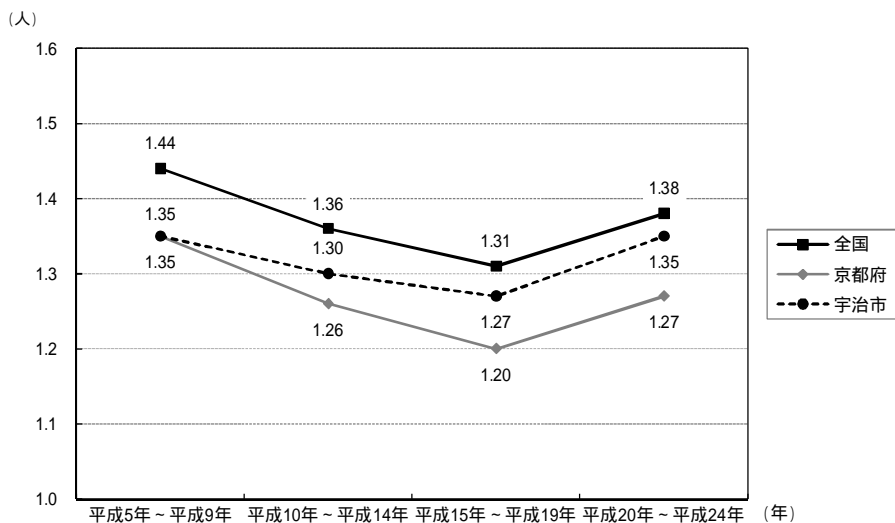
(資料) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」

図表I-3 宇治市における合計特殊出生率（平成20-24年）

	合計特殊出生率 (バイズ推定値)	母の年齢階級別出生率(女性人口千対、バイズ推定値)						
		15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳
全国	1.38	4.8	36.0	87.0	95.1	45.2	8.1	0.2
京都府	1.27	4.0	24.5	76.6	93.8	46.1	8.6	0.2
宇治市	1.35	3.4	28.2	84.6	99.3	45.1	8.2	0.2

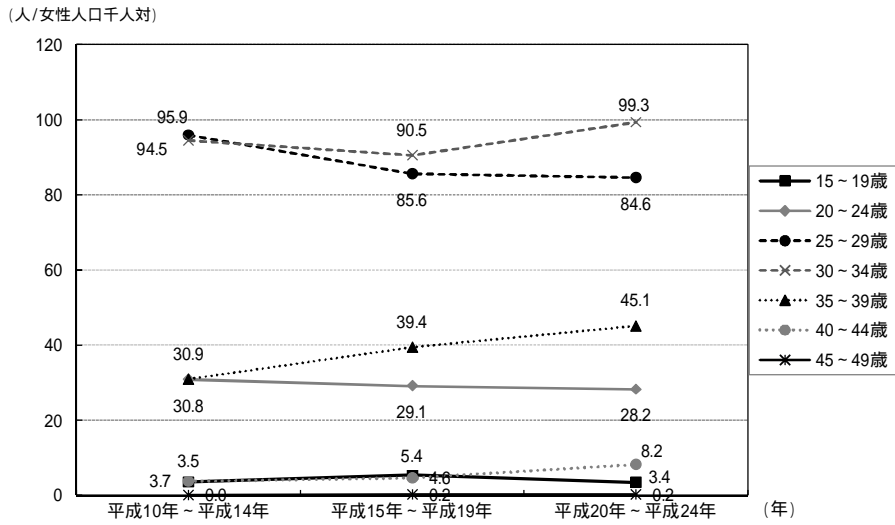
(資料) 厚生労働省「平成20~24年 人口動態保健所・市区町村別統計」

図表I-4 宇治市における合計特殊出生率の推移（全国・京都府との比較）



(資料) 厚生労働省「平成20~24年 人口動態保健所・市区町村別統計」

図表I-5 宇治市における母の年齢階級別出生率



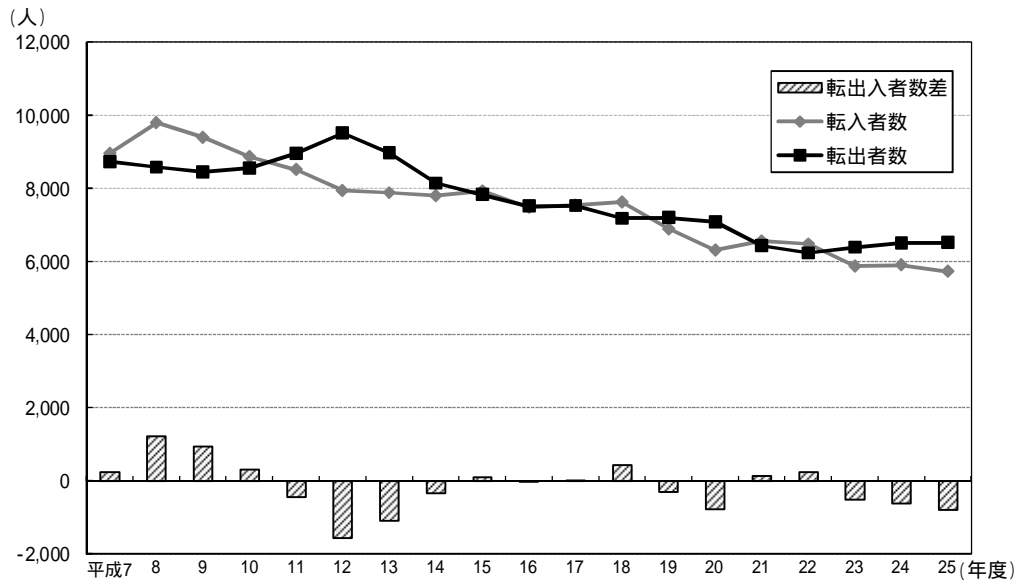
(資料) 厚生労働省「平成20～24年 人口動態保健所・市区町村別統計」

### 3. 社会増減に関する分析

#### (1) 概況

宇治市の社会増減は、転入超過と転出超過を繰り返しながら推移しているが、近年10年間を合計すると、転入者よりも転出者のほうが多く、近年転出超過の幅がやや大きくなってきている。

図表I-6 宇治市に転入・転出数の推移



(資料) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」

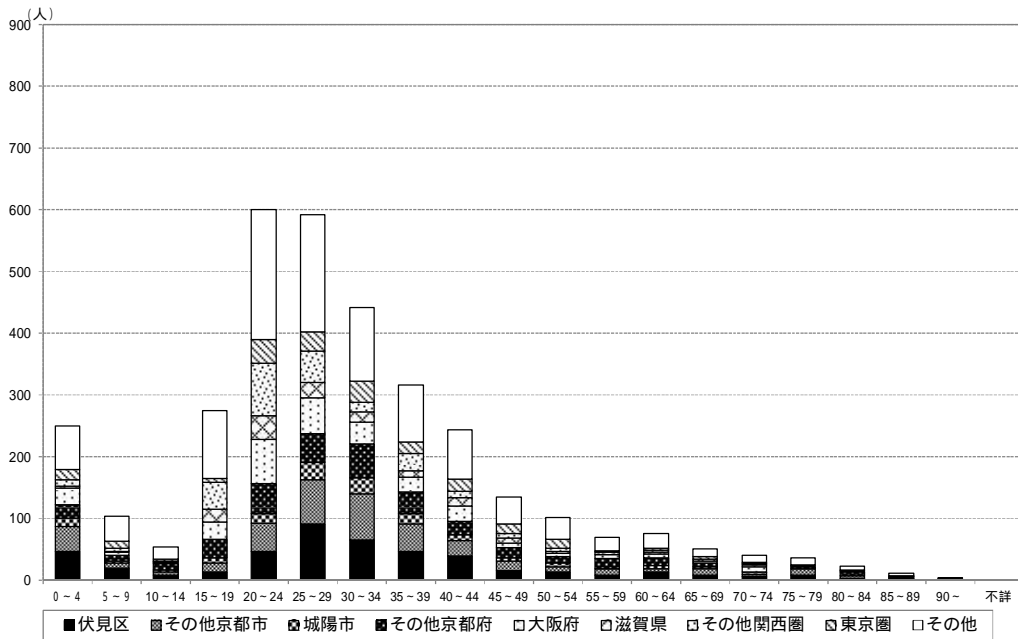
## (2) 年齢別の傾向等

### 平成25年における年齢別の転出入先

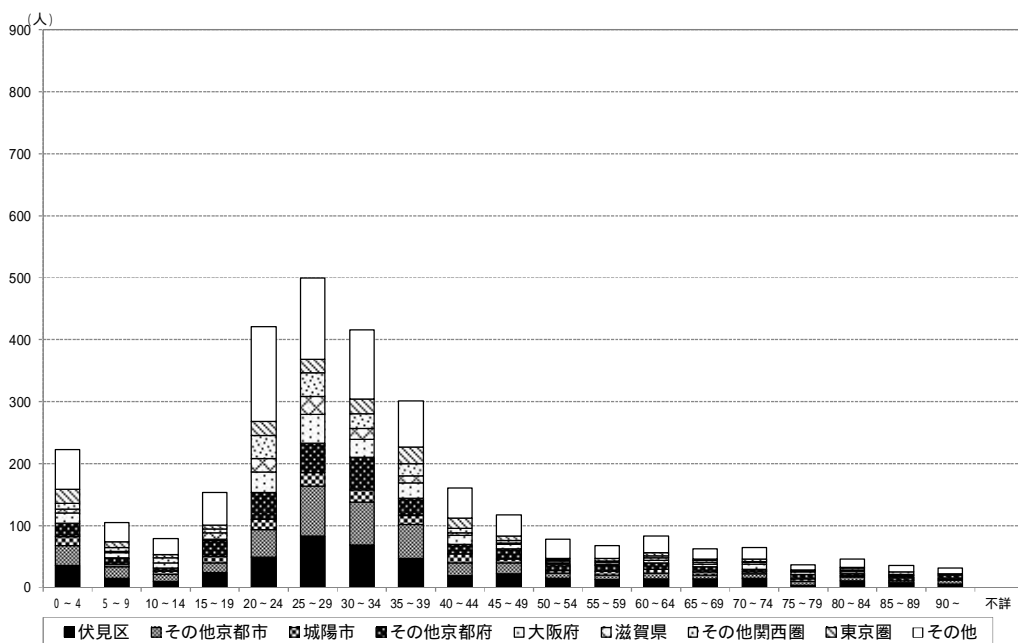
転入者は、特に若い世代において、男性の方が女性よりも多い。男性においては、20歳代後半以降は京都市はじめ、近隣の市町・府県からの転入が多いが、10歳代後半についてはその他の地域からの転入の比率が高い。女性は、男性に比べて東京圏やその他の道県など、遠方からの転入の比率が低い。京都市からの転入は伏見区からがおよそ半数を占める。

図表I-7 宇治市における性別・年齢5歳階級別転出入先の内訳（平成25年）

#### 男性：転入

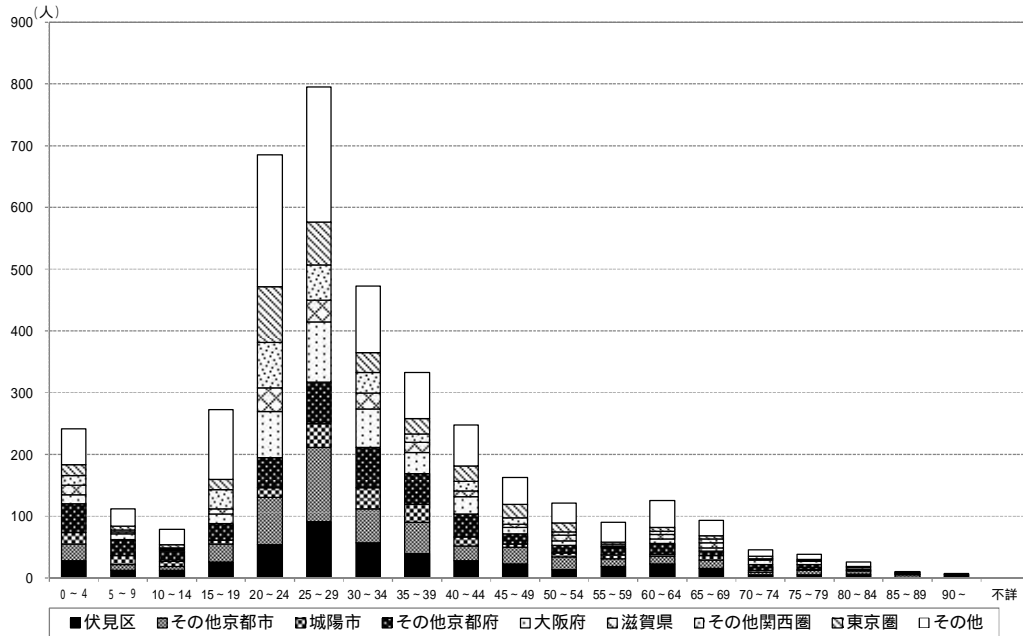


#### 女性：転入

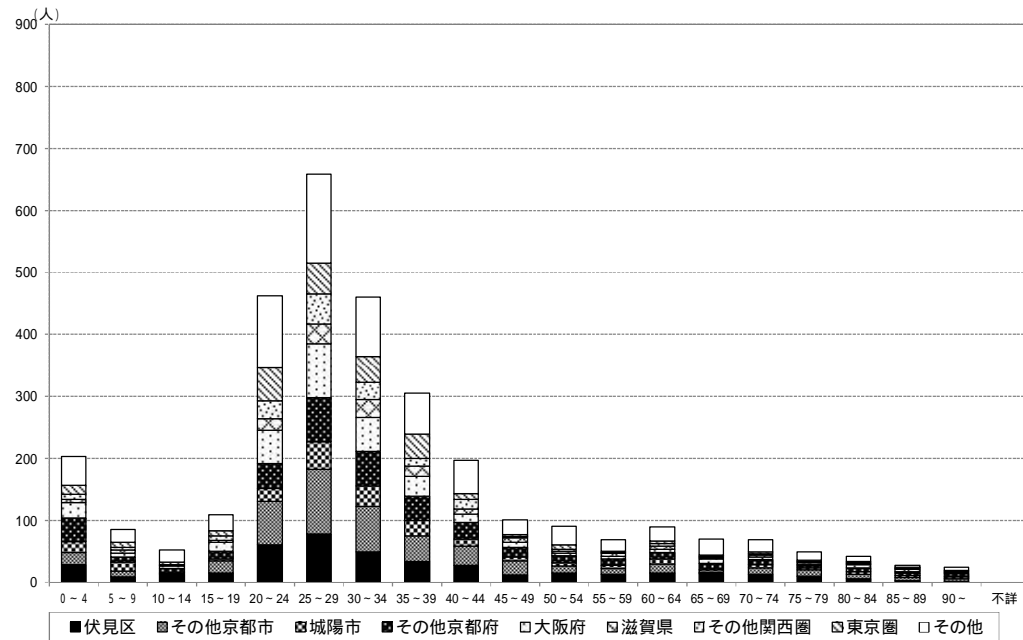


転出については、男女とも20歳代後半が最も多い。男性は東京圏やその他など、遠方に転出する人の割合が高いのに対し、女性は京都市をはじめ京都府内の他都市に転出する比率が高い。京都市への転出に占める伏見区の比率は、転入に比べると低い。

### 男性：転出



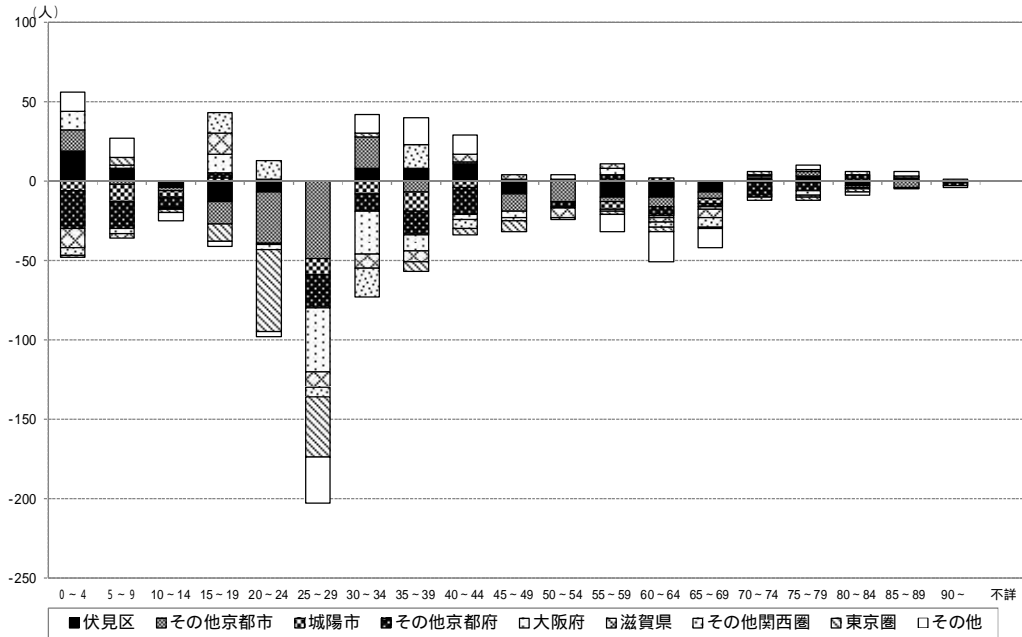
### 女性：転出



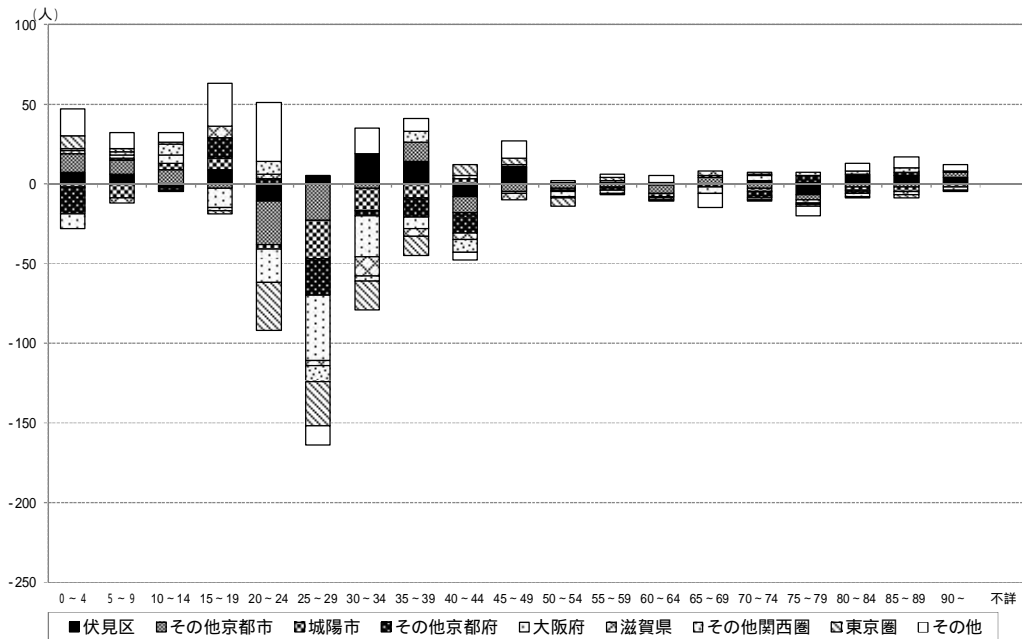
転入から転出を引いた純移動を見ると、20歳代後半の男性は分類した全ての地域に対して転出超過となっている。20歳代を通じて、京都市や東京圏への転出超過幅が大きい。

女性においても、20歳代後半の転出超過幅が大きいですが、男性に比べると、城陽市やその他京都府など、近隣への転出超過幅が大きい。

### 男性：純移動



### 女性：純移動



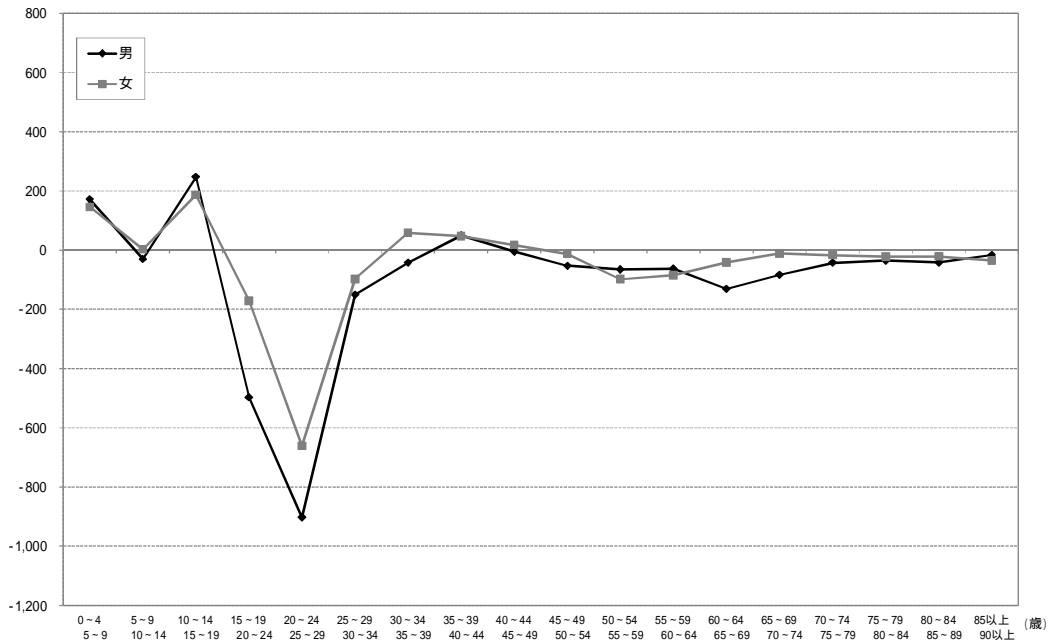
(注)

(資料) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」

## 男女別年齢5歳階級別の純移動の傾向

国勢調査の年齢5歳階級別人口の変化を元に、宇治市における性別・年齢5歳階級別の純移動数を推計すると、男女とも20-24 25-29歳における転出超過が大きいことが分かる。この年代の転出超過幅は、これまでも大きかったが、平成2年から7年にかけてなど、かつては、この年代で大幅に転出超過となっても、以降の年代で大幅に転入超過となっていたが、近年は以降の年代で転入超過となる年代はほとんどなく、超過幅もわずかとなっている。

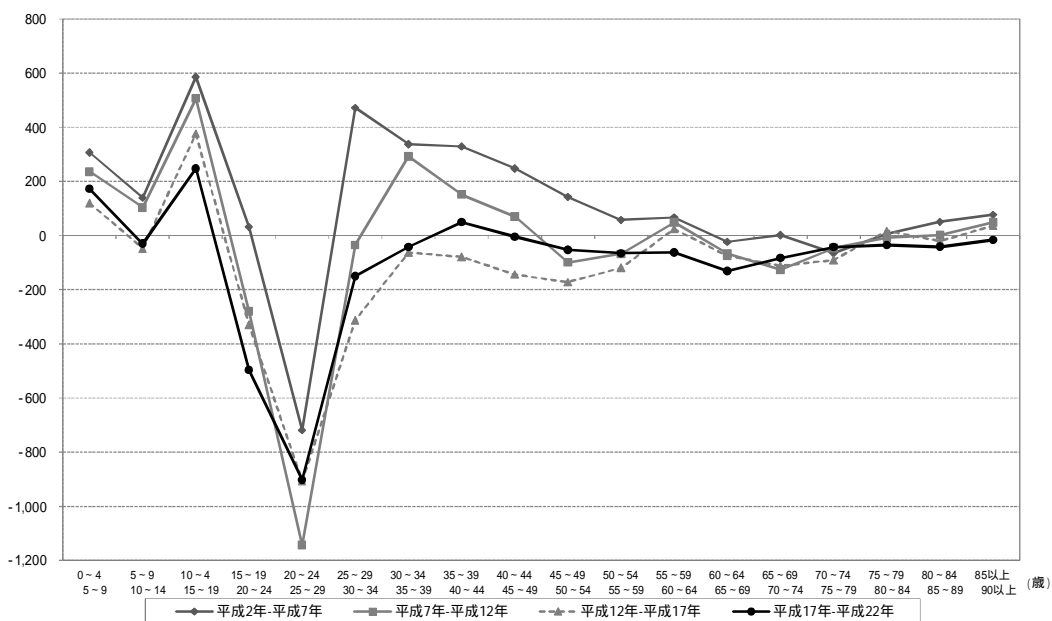
図表I-8 宇治市における性別・年齢5歳階級別純移動数（H17 22）



(資料) 総務省「国勢調査報告」

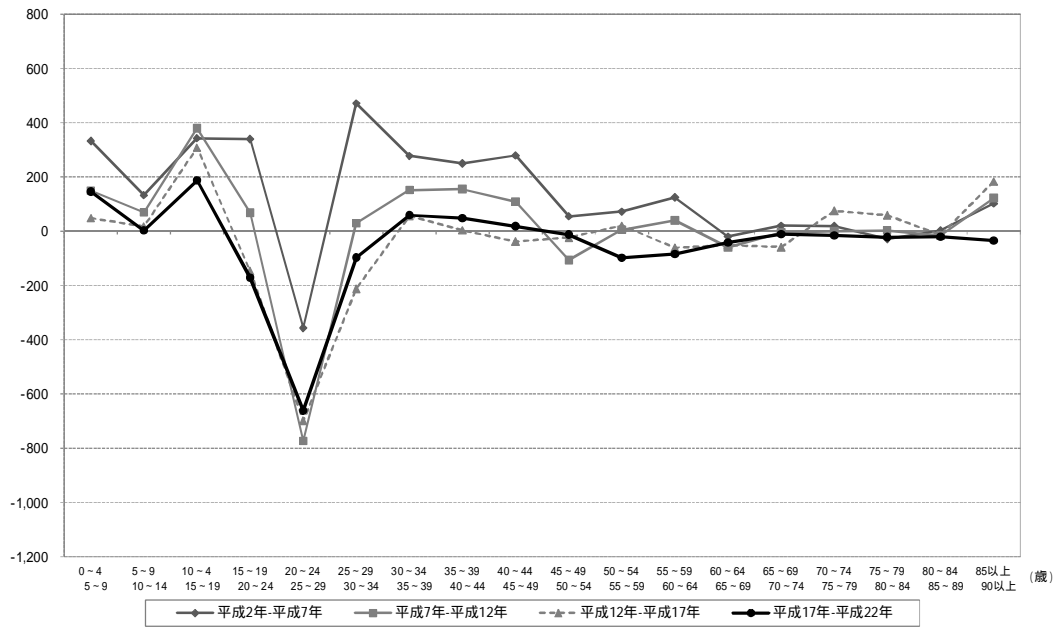
図表I-9 宇治市における性別・年齢5歳階級別純移動数の推移

男性





# 女性



(資料) 総務省「国勢調査報告」

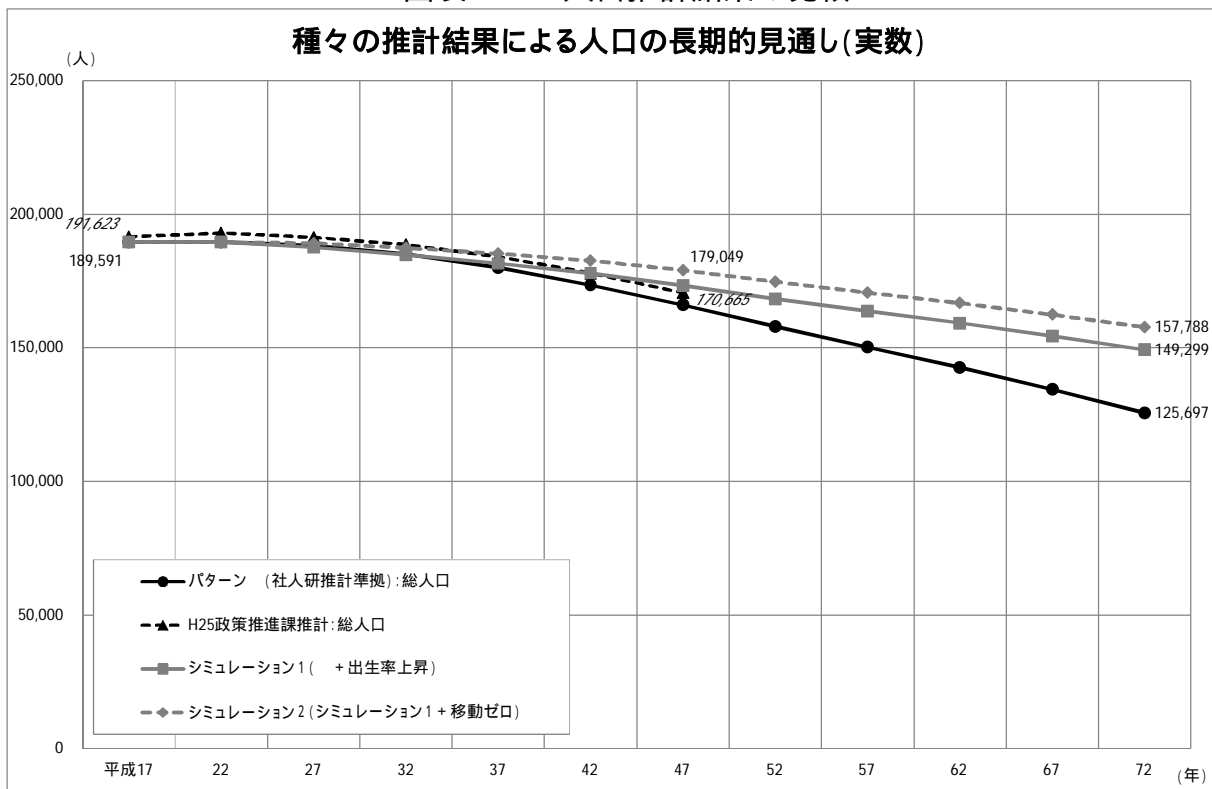
## II. 将来推計人口の検討

### 1. 各種人口推計結果の比較

宇治市においては、平成25年に、政策推進課により、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の推計手法を参考に、住民基本台帳の人口をベースにした人口推計を行っている。また、今回の地方創生の取組にあたり、国が社人研の推計に準拠した推計値を平成72（2060）年まで延長した推計結果と、それをベースに、出生率が平成37（2025）年までに1.80まで回復し、その後人口置換水準を上回る2.10まで回復するケース（シミュレーション1）さらにそれに加えて社会移動が発生しないケース（シミュレーション2）を想定した推計モデルを各市町村に提供している。

政策推進課の推計では、平成47（2035）年において、人口は約17万1千人と推計されるのに対し、シミュレーション2においては、同年で人口は約17万9千人、平成72（2060）年においても約15万8千人を維持できると推計している。

図表II-1 人口推計結果の比較



(注) 社人研や国の推計モデルは国勢調査の人口に、政策推進課の推計は住民基本台帳の人口に基づいている。

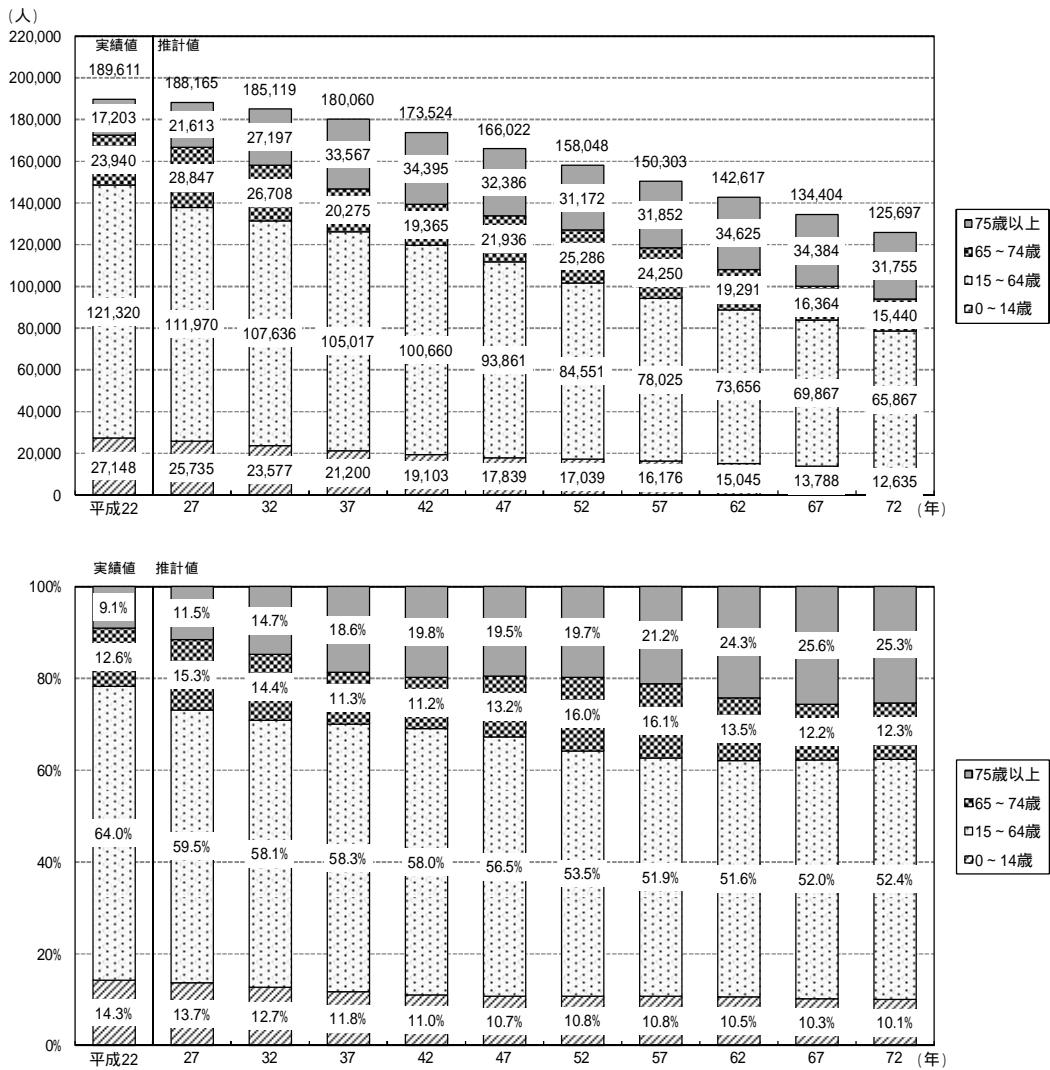
(注) シミュレーション1, 2は、国が示す仮定値において推計したものである。

## 2. 宇治市におけるこれまでの人口推計についての検討

社人研に準拠した推計においては、宇治市の人口は平成72(2060)年に約12万6千人まで減少し、その際には人口のおよそ4割が65歳以上、4人に1が75歳以上の高齢者になると見込まれている。

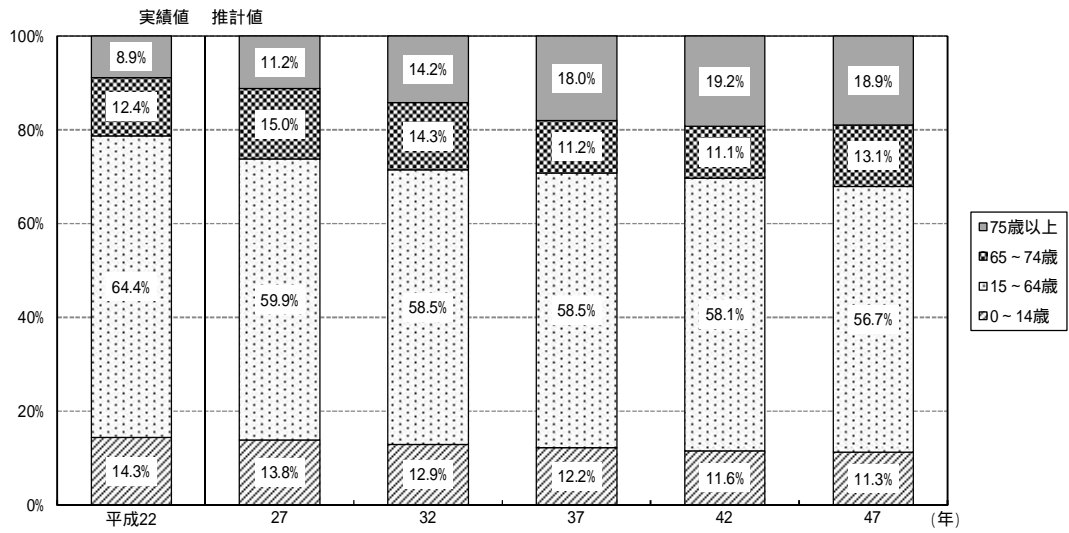
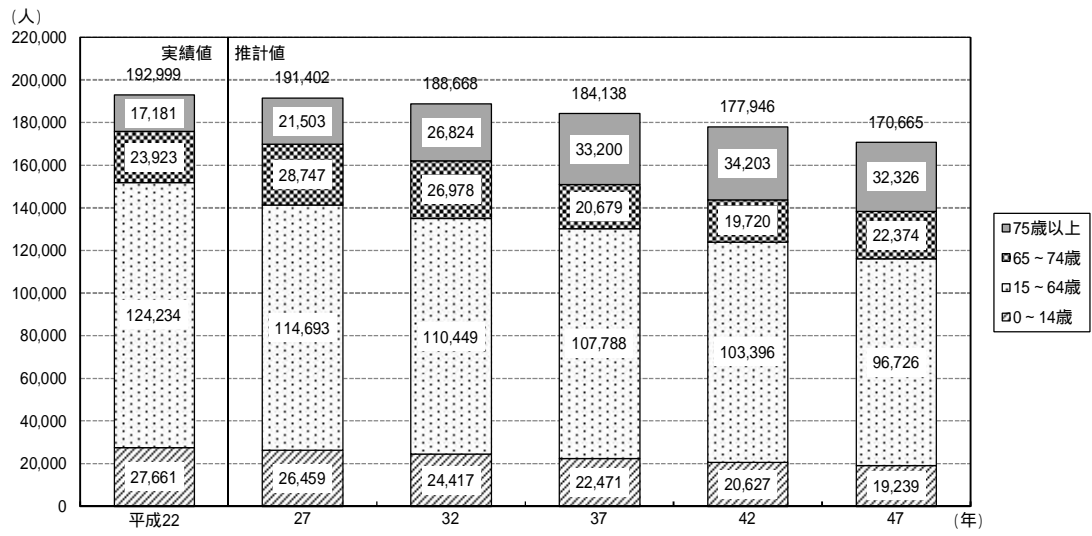
政策推進課の推計によれば、平成47(2035)年において、人口のおよそ3割強が65歳以上、2割弱が75歳以上の高齢者になると見込まれている。

図表II-2 宇治市における将来推計人口(社人研推計)



(資料) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」

図表11-3 宇治市における将来推計人口（H25 政策推進課推計）



(資料) 宇治市「宇治市将来人口推計報告書」(平成25年8月)